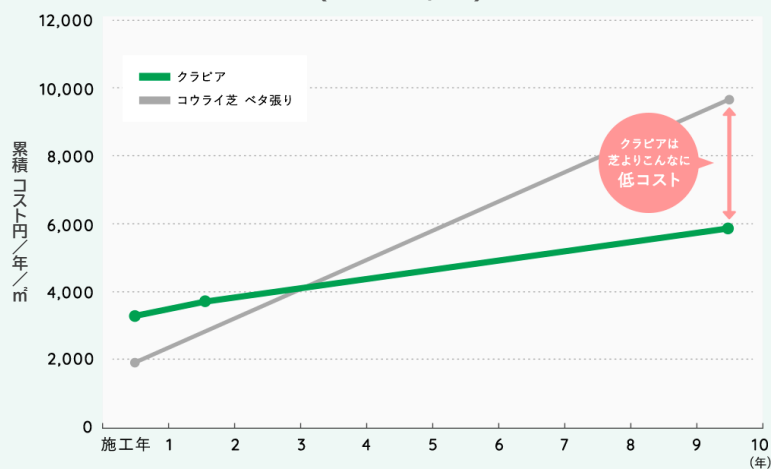




02.維持管理コストの低減

専用防草シート工法(4ポット苗/m²)施工コスト比較



クラピアは葡萄茎で横に広がる性質のため、芝生よりも定期的な刈り込みを低減できます。被覆後は定期的な水やりの必要もなく、緻密に覆うことで雑草低減効果もあり、他の地被植物に比べて維持管理コストの低減が可能です。

左図は、「クラピア」と「コウライ芝」のコスト比較です。導入時は芝よりもクラピアのほうがコストがかかっていますが、ランニングは安価に抑える事ができ、3年目以降からのトータルコストで見ると、クラピアの方が安価です。

これまで防草や緑地の維持管理にコストがかかっていた場所についても、クラピアを導入いただくことで管理コストの削減につながります。

05.沿岸でも生育する「耐塩性」

クラピアは、もともと海岸近くに自生しているイワダレソウが原種のため、塩には強い耐性を持っています。海水のしぶきがかかる場所でも生育できるため海沿いで緑化が難しい場所への植栽に適しています。塩害を受けた土壌でも大規模な改良を行うことなく生育できる希少な植物です。



茨城県沿岸の植栽写真

06.環境に配慮した「在来種」「不稔性」植物

沖縄に自生しているイワダレソウから改良を重ねて開発したクラピア。全品種農水省に品種登録し、「生態系被害防止外来種リスト」から除外されています。植栽場所の生態系に影響なく、安心してご使用いただけます。種をつけないよう改良している為、意図しないところに種が運ばれて発芽し、勝手に広がることがありません。



09.防草シートとの併用が可能

クラピアは防草シートと組み合わせて植栽できる数少ない緑化植物です。専用防草シートを併用した場合、高い防草効果を発揮し、クラピアが防草シートの上に広がることで紫外線を遮ることからシートの耐用年数を伸ばすことも可能。クラピア+シートで長期でのコスト減と美観の向上を同時に叶えます。

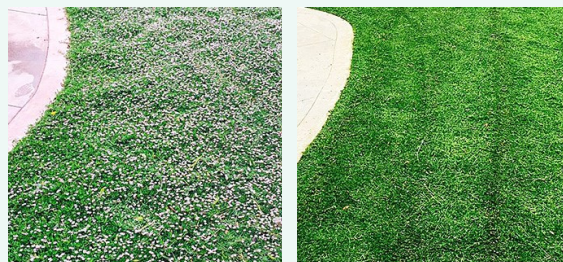


【クラピアマルチシートでの施工例】

クラピア用防草シートは伸びたランナーから出た根をシート下に貫通させます。クラピアが全面被覆するとシートは見えなくなり、紫外線劣化も抑制。

10.美しい景観

クラピアは春から夏にかけて1cmくらいの可愛い花を咲かせます。開花期間は5月~8月と比較的長く一面の花畑のような風景を楽しめます。刈込み回数を増すことで葉が小さく緻密なグリーンカーペットの仕上がりになります。1つの植物で表情の異なる景観をご覧ください。



開花したクラピア

刈り込み後